

2024年6月26日

第47回定時株主総会 質疑応答概要および事前質問へのご回答

株主総会における質疑応答概要

株主総会における、株主さまとの質疑応答の概要について、ご報告申し上げます。

【質問①】

代表取締役が3名体制となっているが、それぞれの役割を伺いたい。

また、3名必要なのかについても考えを伺いたい。

【回答】

代表取締役会長の木下盛好は、会長職として経営全般の統括を担っており、代表取締役副会長の成瀬浩史は、経営全般の補佐とともに、カバナンス体制でいう第3線にあたる監査を所管しております。また、代表取締役社長の木下政孝は、社長執行役員を兼務し業務執行全般の統括を担っており、それぞれが重要な役割を担っております。

【質問②】

海外金融事業に関して、フィリピン共和国とマレーシアには、いつから進出しているのか。また、今後の進出候補先について伺いたい。

【回答】

フィリピン共和国については2018年7月から事業を開始しております。また、マレーシアについては、2023年9月から事業を開始しております。フィリピン共和国については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響もありましたが、現在は債権品質の良化に取り組んでおります。マレーシアについては、事業開始間もないことから、まずは営業基盤を確立することを最優先に取り組んでおります。

今後の進出国候補について、当社はこれまで東南アジアを中心に進出可能性の調査を実施していましたが、外資規制、事業ライセンスの発給等、容易に進出できない国が多くなっております。このような状況から、対象エリアを南アジアまで拡大し、また、進出方法についてもオーガニックに限定せず、現地企業への出資や買収を含め、可能性を模索しております。

事前質問へのご回答

株主総会に先立ち、お寄せ頂いた事前質問について、ご回答申し上げます。

【事前質問①】

今後見込まれる市中金利の上昇が、営業収益に与える影響について伺いたい。

【回答】

市中金利の上昇は、営業収益にほとんど影響しないと考えております。

一方で、営業費用のうち、金融費用に与える影響があることから、金融費用への影響につきましてご回答申し上げます。

2024年3月期末において、アコム単体の資金調達残高は約5,900億円であり、固定金利が占める割合は約83%、また、長期借入が占める割合も約95%となっております。これらのことから、当面の間は、市中金利の上昇が金融費用に与える影響は限定的であると考えております。

今後も、金融費用を重視し、直接と間接、長期と短期、固定と変動などの借入比率の最適化に留意のうえ、金融費用の抑制に努めて参ります。

【事前質問②】

当社は、シェアハウス「かぼちゃの馬車」や「アパマンローン」などの投資用不動産ローンで、不正融資被害が発生しているスルガ銀行と、信用保証で、業務提携しているが、業務提携を見直す考えはあるのか伺いたい。

【回答】

当社はスルガ銀行さまの販売するカードローンに対する保証事業を行っており、適正に業務運営を行っております。

現時点において、業務提携を見直す予定はございませんが、株主さまにご心配をおかけすることがないように、引き続き適正な運営に努めてまいります。

【事前質問③】

カードローンの延滞について、口座振替利用者と任意日返済利用者の割合を伺いたい。口座振替利用者の割合が少ない場合、その理由と改善させる予定があるのか伺いたい。

【回答】

カードローンの延滞における口座振替利用者と任意日返済利用者の割合は、開示情報ではございませんので、回答はご容赦願います。

なお、当社では、お客さまにとってより便利な環境を整えることを目的に、口座振替利用の手続きを2022年6月に変更いたしました。

これまでは書面での手続きが必要でしたが、以降はインターネットによる手続きが可能

となりました。

これにより、口座振替を選択されるお客さまが増えております。

【事前質問④】

現在、東証スタンダード市場に上場しているが、プライム市場への移行を目指す予定があるのか伺いたい。

【回答】

東京証券取引所は、2022年4月に市場区分の見直しを実施し、その際、当社は、「スタンダード市場」を選択いたしました。現時点において、プライム市場への移行は予定しておりません。

以 上